

ロボットとソフトウェアによるスマートファクトリーの深化 「Mazak Solution Partners」によるコラボレーションでソリューション提供力を拡大

ヤマザキマザック株式会社(社長:山崎高嗣、本社:愛知県大口町)は、スマートファクトリーの深化とソリューション提供力の拡大を目指し、ロボットメーカーやソフトウェアメーカーとの連携を強化するコラボレーション「Mazak Solution Partners(マザック ソリューション パートナーズ)」を発表します。

近年、スマートファクトリー化が求められている背景には、労働人口の減少と熟練作業者の不足への対応、マスカスタマイゼーションに代表される多品種少量生産の効率化などがあります。こうしたグローバル規模の多岐にわたるニーズに迅速かつ、きめ細かく対応することは工作機械メーカーだけでは困難です。

このような中、当社はロボットメーカーやソフトウェアメーカーとの連携を強化。当社製工作機械との接続インターフェースをパートナー企業に公開することで、個々のユーザーニーズを反映したロボットによる自動化セルの構築や、オフィス PC による段取り作業を支援するソフトウェアとのデータ連携を容易とし、更なる生産効率の向上とお客さまの工場のスマートファクトリー化を実現します。

9月16日よりドイツで開催されている欧州国際工作機械見本市(EMO Hannover 2019)のマザックブースでは、各ソリューションパートナーと連携し、新製品の「INTEGREX i-450H ST」や「VARIAXIS C-600」などでのデモ展示を行っています。



【ソリューションパートナーとのコラボレーションによるソリューション提供力の拡大】

掲載されているプレスリリースは、報道関係者へ発表した情報の要約です。
予告無く内容が変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください